SEINAN CHANTEURS

1999

(財)福岡市文化芸術振興財団助成

《創立45周年記念》

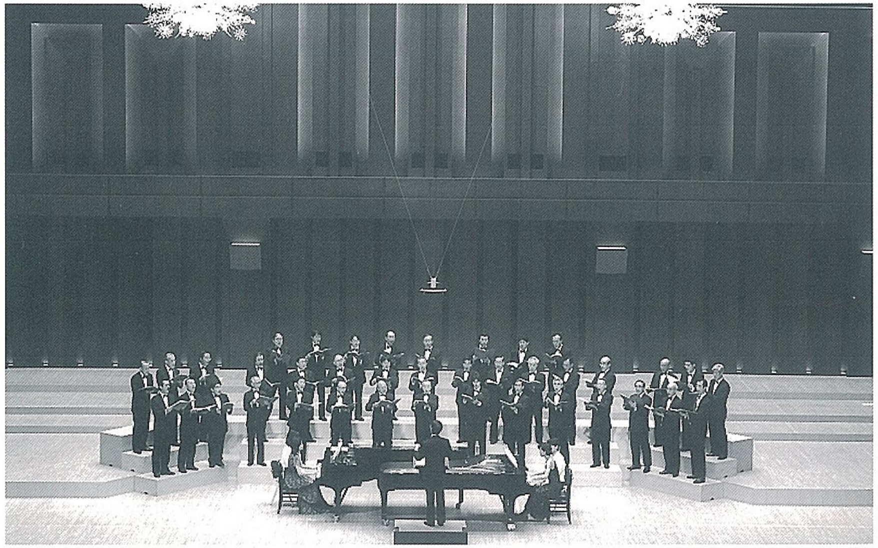
第22回西南シャントゥール定期演奏会

SEINAN CHANTEURS ANNUAL CONCERT 1999

賛助出演：西南学院グリークラブ

1999年11月25日(木) 午後7:00開演
アクロス福岡シンフォニーホール

主催/西南シャントゥール　　共催/西南学院大学同窓会・西南学院グリークラブOB会
後援/福岡市・福岡市教育委員会・(財)福岡市文化芸術振興財団・福岡県合唱連盟・朝日新聞社



「1998・第22回定期演奏会」より

ごあいさつ

西南学院大学同窓会
会長／富重　泰行

1999年の西南シャントゥール定期演奏会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

本年は西南学院大学の開学50周年記念の年であります。それ以前の西南学院専門学校当時より、実に80年に亘り西南学院グリークラブとして輝かしい活躍を果たしてきた皆様は、私ども西南人にとりまして、西南OBの結束の堅さと友好の強さを感じる大変誇り高いものであります。

大学在学中はグリークラブ、そして卒業後はシャントゥールとしてメンバーの高齢化をものともせず、少しずつ若年層の加入もあり、老いを忘れ楽しく歌うことをモットーに毎週の練習に励んでおられるご様子。幅広いレパートリーを持つ西日本でも数少ない社会人の男声合唱団として、ますますの力と輝きを増しますようお励みくださいますことを祈念申し上げます。

最後にこのコンサートの運営に携わっていらっしゃる関係各位のご尽力に深く敬意を表しまして私のお祝いの言葉といたします。

西南学院グリークラブOB会
会長／後藤　照男

初冬の夕べ、第22回西南シャントゥールの定期演奏会にかくも多数のご来場を頂き、誠に有難うございます。西南学院グリークラブのOB会として厚く御礼申し上げます。

今回は西南学院大学開学50周年の記念すべき年にあたり、大学同窓会とグリーOB会も共催して開く演奏会です。

西南シャントゥールは昭和29年（1954年）4月、グリークラブOB、第54期卒の内海敬三氏（現・指揮者）らが中心となって結成され、西南学院卒業者のみのベテラン揃いです。今宵は心に染みる男声合唱ならではのハーモニーの魅力をたっぷりお楽しみくだされば幸いに思います。

西南シャントゥール
会長／徳永麟之助

本日は私ども西南シャントゥールの演奏会に、平日にも拘わらず大勢のご来場頂き厚く御礼申し上げます。

5年前、福岡サンパレスに於いて、石丸　寛氏をお招きして創立40周年の記念演奏会をしましたのがつい最近の感じがしておりましたが、その石丸氏も今は亡く、今更ながら歳月の流れを心に深く感じております。

今年も現役の西南学院グリークラブが応援のステージを創ってくれました。近年、大学内のクラブ活動の衰退化にともない、グリーのメンバーも大幅に減り、OB諸氏の心配するところでありますが、今宵は少数ながら立派な演奏をしてくれるものと期待しています。最後は合同で「月光とピエロ」を歌います。この男声合唱の名曲の魅力を十分感じて頂ければ嬉しく思います。

メンバーの高齢化が確実に進んではいますが、皆な歳と戦いながら、(あるいは歳を忘れた振りをしながら）練習を楽しんできました。その成果がどのくらい出せますか。どうぞ最後までお楽しみください。

最後になりましたが本演奏会を催すにあたり、多くの関係者、関係機関の皆様そして企業の皆様のお世話になりました。心より御礼申し上げます。

[Ⅰ部]

Ⅰ．無伴奏男声合唱曲：シューベルトの『鱒』変奏曲
“Die Launige Forelle”／きまぐれな鱒（抄）

編曲／Franz Schöggl

指揮／馬頭経明

1. Thema：“Die Forelle” von Franz Schubert……（テーマ曲：シューベルトの鱒）
2. Mozart：Eine kleine Nachtforelle ……………（モーツアルトの鱒の小夜曲）
3. Beethoven：Zur Ehre der Forelle ……………（ベートーヴェンの鱒への栄光）
4. Weber：Der Freifisch …………………………（ウェーバーの魔弾の鱒）
5. Wagner：Fischerchor ……………………………（ワーグナーの釣り人の合唱）
6. Gebirgsforelle am späten Abend ………………（夕べの山の鱒）
7. Wolga - Forelle ……………………………………（ヴォルガの鱒）
8. Fischfang mit List…………………………………（リストと共に魚取り／ずる賢い魚取り）

Ⅱ．〈賛助出演〉西南学院グリークラブ
男声合唱組曲『三崎のうた』

作詩／北原白秋　　作曲／多田武彦

指揮／龍　　毅

Ⅰ．丘の三角畑
Ⅱ．白南風　黒南風（しらばえ　くろばえ）
Ⅲ．海雀
Ⅳ．雨中小景
Ⅴ．鮪組（まぐろぐみ）

― 休憩（15分）―

[Ⅱ部]

Ⅲ．男声合唱とピアノのための『花に寄せて』（抄）

作詩／星野富弘　　作曲／新実徳英

指揮／内海敬三

ピアノ／瀬川啓子

Ⅰ．たんぽぽ
Ⅱ．ねこじゃらし
Ⅲ．つばき・やぶかんぞう・あさがお
Ⅳ．てっせん・どくだみ
Ⅴ．みょうが
Ⅵ．ばら・きく・なずな　―母に捧ぐ―

Ⅳ．《合同演奏》男声合唱組曲『月光とピエロ』

作詩／堀口大學　　作曲／清水　脩

賛助出演／西南学院グリークラブ

指揮／内海敬三

Ⅰ．月夜
Ⅱ．秋のピエロ
Ⅲ．ピエロ
Ⅳ．ピエロの嘆き
Ⅴ．月光とピエロとピエレットの唐草模様

指揮者／内海　敬三 (うつみ　けいぞう)

1954年、西南学院大学商学部卒業。56年、英文科卒業。
1950年、西南学院グリークラブ指揮者となり翌28年と連続して西部合唱コンクールに優勝。全国合唱コンクール大学の部でも連続3位に入賞して、戦後のグリークラブの第一期黄金時代を築いた。
1954年（昭和29年）4月、西南シャントゥール創設、今日に至る。

指揮者／馬頭　経明 (ばとう　のりあき)

1959年、西南学院大学卒業。
西南学院高校、大学を通してグリークラブに在籍。在学中指揮者として活動。
1954年高校3年在学中に西南シャントゥール創設に参加。
現在副指揮者。小林研一郎氏、竹内　剛氏に師事。
福岡音楽文化協会に勤務。

ピアノ／瀬川　啓子 (せがわ　けいこ)

福岡教育大学卒業。
ピアノを江頭恵美子、福田伸光の各氏に師事。
独唱、合唱のピアニストとして活躍。
現在、西南学院大学文学部児童教育学科教授。

西南シャントゥール出演者

● 1st Tenor	● 2nd Tenor	● Baritone	● Bass
＊内海　洋一	的野　恭一	林　照樹	＊鶴原　太郎
秋根　武	福井　勲	内海　敬三	下川　勝史
乙藤　成美	馬頭　経明	和田　正義	豊田佳日子
宮地　基次	野辺　和馬	石川　和義	木道　昇
高木　正志	波多江　忠	古賀　正義	田中　義信
中尾　武史	徳永　和彦	松尾　淳郎	井形　宣英
出口　幸一	＊佐藤　宗一	高川　弘幸	鶴　喜広
本山　和文	黒江　量二	佐藤　棟也	松枝　保匡
窪田　敏博	＊徳永　武雄	里中　健	毛利　正明
倉地　進	石松　茂	小西　真二	森　博彦
杉本　哲也	山元　一憲		＊大村　則之
山口　聰	亀川　正則		
諸熊　敏明	亀井　幹登		
中山　敬二(現役・OB担当)			

（＊印／第Ⅳステージ出演）

♪福博の今年の話題は何と言ってもホークスの優勝。おまけに予想を覆しての堂々の日本一。久し振りに世代を越えて街中が沸き返った。41年前のライオンズの経験がある私にとっては、むしろ41年というその歳月に思いがいく。シャントゥールは丁度この同じ時期に存在してきた。日本経済の胎動期から最盛期の中で社会の波に揺れながらも一年一年を積み重ねて今年で45周年。これも今まで長きに亘り支えて頂いた多くの皆様のおかげです。あつくお礼申し上げます。又、この度はドイツ語の発音で声楽家の西内 玲 さんにご指導頂きました。上達がご披露できますかどうか。そして本日ご来場のお客様には、唯々感謝申し上げます。
G.マネージャー/中尾武史（☎928-0911）

Ⅰ シューベルトの『鱒』変奏曲

フランツ・シューベルトはその短い31年と言う生涯で、6,000曲を数える歌曲を作曲しています。３つの有名な歌曲集「美しき水車小屋の娘」、「冬の旅」、「白鳥の歌」はよく知られている歌曲集です。

変奏曲のテーマになっている「鱒」は、シューベルトの歌曲の中でもよく歌われている曲で、音楽の教科書にも採用されております。

シューバルトの詩に1817年に作曲されたもので、“キラキラ輝く小川の中を元気よく泳ぎ回る「鱒」、そこに釣り人が現れ、釣られてしまう”その様子が生き生きと歌われます。

“Die Forelle”は「鱒」と訳されますが、実際は「やまめ」に近い魚と言われています。

このメロディーはシューベルトの〈ピアノ五重奏曲〉「鱒」の第4楽章に用いられている事でも有名です。

この変奏曲は「鱒」の詩とメロディーを生かしながら、登場するそれぞれの曲の特徴を巧みに生かされた編曲で楽しませてくれます。

（記：馬頭経明）

“Die Forelle ” von Franz Shubert

In einem Bächlein helle, da schoß in froher Eil,	真澄みの川に　鱒は泳ぐ
Die launische Forelle vorüber wie ein Pfeil.	矢よりも早く　はしり泳ぐ
Ich stand an dem Gestade und sah in süßer Ruh'	岸辺に立ちて　我は見守る
Des muntern Fischleins Bade im klaren Bächlein zu,	真澄みの川に　鱒は泳ぐ
Des muntern Fischleins Bade im klaren Bächlein zu.	真澄みの川に　鱒は泳ぐ
Ein Fischer mit der Rute wohl an dem Ufer stand,	一人の釣り人　岸に立ちて
Und sah's mit kaltem Blute, wie sich das Fischlein wand.	竿持て鱒を　釣らんとしぬ
So lang dem Wasser Helle, So dacht' ich, nicht gebricht,	そを眺めつつ　我は思う
So fängt er die Forelle mit seiner Angel nicht,	澄みたる水に　鱒は釣れじ
So fängt er die Forelle mit seiner Angel nicht.	澄みたる水に　鱒は釣れじ
Doch endlich ward dem Diebe die Zeit zu lang'.	釣り人はついに　いかりて
Er macht das Bächlein tückisch trübe,	流れを濁らしぬ　ああ流れを
Und eh' ich es gedacht, so zuckte seine Rute,	かくしてやがて
Das Fischlein, das Fischlein zappelt' dran,	鱒は釣られにけり
Und ich mit regem Blute sah die Betrog'ne an,	心も痛く　我は見たり
Und ich mit regem Blute sah die Betrog'ne an.	心も痛く　我は見たり

（訳詩：緒園凉子）

Ⅱ 男声合唱組曲「三崎のうた」

「三崎のうた」は多田武彦が1969年に北原白秋の詩集「畑の祭」と創作民謡集「日本の笛」より詩を選び、当初４曲構成の男声合唱組曲として作られたが、その後「海雀」を加え５曲編成のものとして再発行された。

「雨はふるふる、城ヶ島の磯に、利休鼠の雨がふる……」。美空ひばりがうたう「城ヶ島の雨」の、神奈川県は三浦半島がこの曲の舞台である。明治45年、戸籍上はまだ人妻であった福島俊子との不幸な恋愛事件により、当時青年詩人として名声名高かりし白秋の、人生における暗闇と挫折の時期であった。その詩が示すように、この時点で白秋は自殺を思うほど人生に落胆していた。傷心の旅の末たどり着いた三浦半島で、地平線に広がる野山や鮮やかな海光に心癒された。その後、白秋は生まれ変わったように創作活動に没頭していったが、以前の青年詩人的な作風は消え、森羅万象に神秘性を見いだすという、仏教思想にもとづいたものとなっていた。「三崎のうた」は、白秋の詩人としての人生における転換期であり円熟期でもあったのである。

1.『丘の三角畑』（詩集「畑の歌」より）
働く人々の姿を写実的にとらえ、ひたすらに鍬を打つ農夫の様子に白秋自身のやり切れない思いが込められているようである。

2.『白南風　黒南風（副題「油壷のうた」）』（創作民謡集「日本の笛」より）
「しらばえ」は夏の晴天の南風、「くろばえ」は梅雨どきの荒天の南風を意味し、ともに漁師が使う言葉である。悲しみにくれた白秋が、「しらばえ」とともに希望を待ち望む様子と、「くろばえ」とともに来る不安が交錯した内容である。

3.『海雀』（詩集「畑の歌」より）
波の不規則な揺れと、海雀の不安定な飛び方を同時に描写した内容となっており、ともすれば消えてしまいそうな海雀の飛行に不安が残る詩となっている。

4.『雨中小景』（詩集「畑の歌」より）
旧仮名遣いにより、浮世絵を言葉であらわすかのような詩となっているが、「さるにてもうれしきは浮世なりけり」という言葉には白秋の人生観が垣間見える。

5.『鮪組』（創作民謡集「日本の笛」より）
いきのいい掛け声とともに上がってくる大量の鮪と、たくましい漁師たちの姿を描写しており、人を含めた自然に対する生命力を感じる詩である。

（学生指揮／龍　毅）

西南学院グリークラブ出演者

●1st Tenor	●2nd Tenor	●Baritone	●Bass
荒木　規夫(法・4)	片岡　潤也(経・4)	佐野　将史(商・4)	浦﨑　晃浩(経・4)
平田　雄嗣(法・4)	清原　圭司(文・4)	永本　貴志(法・4)	田中　豊(文・4)
龍　毅(経・4)	中尾　隆宏(法・3)	仁木　賢則(経・3)	三原興一郎(文・4)
坂谷　裕馬(法・3)	中山　敬二(法・3)	諸岡　正芳(商・3)	礒村　康行(文・3)
田中　秀人(文・3)	米澤　孝志(法・3)	下川　慎二(法・2)	梅田　義和(法・3)
廣岡　誠治(文・2)	近本　喜隆(経・1)	黒田　宏(文・1)	野々下陽一(文・2)
永田　哲也(商・1)	花田　真一(商・1)	吉田　文平(経・1)	秋山将太郎(法・1)
森田　雅之(法・1)			杉谷　大輔(商・1)

三崎のうた（詩／北原白秋）

丘の三角畑

その一

鍬打つ、鍬打つ、
裸で鍬打つ、
空は円天井、
地面は三角、
光は薔薇いろ、藍いろ、利休茶。

鍬打つ、鍬打つ、
並んで鍬打つ。
とべらの木は山形、
反射は三角、
光は銀いろ、薔薇いろ、灰いろ。

鍬打つ、鍬打つ、
離れて彼方此方、
黙つて鍬打つ、
向うにライ麦、こちらに人参。
光は利休茶、緑に、金色。

鍬打つ、鍬打つ、
うしろむきに鍬打つ、
一心に鍬打つ、
打たずにやゐられぬ、
とべらの木の周囲を廻つて鍬打つ。
光は薔薇いろ、空いろ、利休茶。

鍬打つ、鍬打つ、
近寄つて鍬打つ、
キラキラするのは巡査のサアベル、
畑の上では蒸汽が旗振る。
光は薔薇いろ、湾内や真青。

鍬打つ、鍬打つ
振りかへつて鍬打つ、
とべらの木の下ではあかんぼがすやすや、
鶏がコケツコツコ。
光は薔薇いろ、藍いろ、利休茶。

鍬打つ、鍬打つ、
向きあつて鍬打つ、
拝んで鍬打つ、
打たずにやゐられぬ、心から鍬打つ。
光は薔薇いろ、向日葵、金色。

ぎあとあかんぼが啼き出した。

白南風黒南風

油壷のうた

小焼、夕焼、
風ぐるま。
明日は日和か、風ぐるま。
せめてたよりを待ちましよか
風が吹きます、白南風が。

小焼、朝焼、
風ぐるま。
明日はあらしか、風ぐるま。
どうで、たよりも片だより。
風が吹きます、黒南風が。

海雀

海雀、海雀、
銀の点点、海雀、
波ゆりくればゆりあげて、
波ひきゆけばかげ失する、
海雀、海雀、
銀の点点、海雀。

雨中小景

雨はふる、ふる雨の霞がくれに、
ひとすぢの煙立つ、誰が生活ぞ、
銀鼠にからみゆく古代紫、
その空に城ケ島近く横たふ。

なべてみな空なりや、海の面に
輪をかくは水脈のすぢ、あるは離れて
しみじみと泣きわかれゆく、
その上にあるかなきふる雨の脚。

遥なる岬には波もしぶけど、
絹漉の雨の中、蜑小舟ゆたにたゆたふ。
棹あげてかぢめ採りゐる
北斎の蓑と笠、中にかすみて
一心に網うつは安からぬけふ日の惑ひ。

さるにてもうれしきは浮世なりけり。
雨の中、をりをりに雲を透かして
さ緑に投げかくる金の光は
また雨に忍び入る。音には刻めど
絶えて影せぬ鶺鴒のこゑをたよりに。

鮪組

＊

南風だ、船出だ、
鮪漁だ、組だ。
えいそら、〳〵。
ただこの意気だぞ、
裸でやつつけ。

今に鮪の
富士の山。
えいそら、〳〵。

＊

一度家を出りや、
女房、子もあろか。
えいそら、〳〵。
ただこの意気だぞ、
早櫓ですつ飛べ。

意気は三崎の
鮪組。
えいそら、〳〵。

＊

時化けよ、しけの風、
どんと吹いてござれ。
えいそら、〳〵。
ただこの意気だぞ、
三崎の若衆だ。

腕に筋金、
赤ふどし。
えいそら、〳〵。

＊

潮だ、早瀬だ、
そりやこそ、鮪。
えいそら、〳〵。
ただこの意気だぞ、
占めたぞ、追つかけ。

海は鰯の
雪なだれ。
えいそら、〳〵。

＊

風は南風のかぜ、
八挺櫓の櫓風。
えいそら、〳〵。
ただこの意気だぞ、
一気にやつつけ。

灘は相模灘、
初鮪。
えいそら、〳〵。

＊

漕いで漕いで漕いで、
北条の入江。
えいそら、〳〵。
ただこの意気だぞ、
見えたぞ、燈だ。

晩にや、大漁の
お酒宴。
えいそら、〳〵。

Ⅲ 男声合唱とピアノのための「花に寄せて」

作詩者の星野富弘氏は1946年群馬県生まれ。中学の体育教師となり就職して二ヶ月目、体育の模範演技中の事故で「頚椎前方脱臼骨折、頚髄損傷」となり、幾度となく生死の間を彷徨った末、かろうじて命は取りとめたが、首から下は全く動かないという、快復の見込みのない重度の身障者となる。
たまたま、ある青年の為に慰めの文を書こうと、必死で筆を口にくわえて文字を書くのをおぼえ、さらに画まで描くようになる。病院長の勧めによる身障者センターの廊下での展覧会は非常な反響をよび、その後展覧会も全国各地で催され、詩画集も「愛、深き淵より」ほか数多く出版されている。

作曲者の新実徳英氏は1947年生まれ。大学紛争の最中に音楽の道へ転向を決意。1970年東京大学工学部卒業後、東京芸術大学に入学、同大学院在学中に全日本合唱コンクール課題曲入選、さらに第8回ジュネーブ国際バレエ音楽作曲コンクールで、史上二人目のグランプリ並びにジュネーブ市長賞を得た。氏は大学入試発表を見るより先に、大中恩主宰の<コール・メグ>の入団試験を受けるほどの合唱好きで、従ってその作品の半数近くは合唱曲である。

星野氏の重い現実を突き抜ける、澄みきった信仰者の心は、ピアノと合唱の織りなす花束となり、見事に表現されている。オリジナルは混声合唱であるが、合唱界の大御所、関屋晋氏の要望を受け、作曲者自身によって男声合唱に編曲された。

足許を見上げる

指揮者/内海敬三

道の隅で　歩く人の足許を見上げ　ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が　現われるのをまっていたかのように……

この夏、クゥワストフ氏の演奏を聴きました。サリドマイドの障害で手足が短い彼は、二段のステージに椅子を置いて座りながらの熱唱でした。過日、彼のシューベルトの「冬の旅」の演奏会では涙をうかべていた人も多かったと聞きました。今、ニューヨークでは話題のバスバリトン歌手で、オペラ出演の依頼まであったそうです。
また、電動椅子に乗った「五体不満足」の著者、乙武洋匡氏の「身障者であることは不便ではあるが不幸ではない。」という言葉に「生きる」ことの意味を問い直されているようです。今夜歌う「花に寄せて」の作詩者、星野富弘氏も重度の身障者で、血を吐く思いをしながら、口にくわえた筆で書いたその詩は多くの人に感動を与え、今ではその詩画集は全国の書店で紹介されています。

私達は足許は見下ろすことしかありません。しかし「足許を見上げ、ひっそりと生きてきた」彼等が、多くの人達に慰めと励ましを与え、その人達の「必要とする人」となっているのは驚きです。身障者の問題は高齢化社会の問題であり、歳を重ねる我々自身にとっても不可避の問題ですが、彼等の生き方に時代の希望を見るように思います。

「花に寄せて」は我が団のメンバーから定演の曲として推薦を受けていたのですが、オリジナルの男声合唱曲ではないということで、当初候補からはずしていました。しかし、旋律が魅力的であるという以上に、今日的な問題を提起するこの曲を選びました。

花に寄せて（詩／星野富弘）抄

Ⅰ　たんぽぽ

いつだったか
きみたちが空をとんで行くのを見たよ
風に吹かれて
ただ一つのものを持って
旅する姿が
　うれしくてならなかったよ
人間だってどうしても必要なものは
ただ一つ
私も　余分なものを捨てれば
空がとべるような気がしたよ

Ⅱ　ねこじゃらし

思い出の向う側から
一人の少年が走ってくる
あれは白い運動ぐつを
初めて買ってもらった日の
私かも知れない
白い布に草の汁を飛び散らせながら
あんなにも
　あんなにも嬉しそうに
今に向かって　走ってくる

Ⅲ　つばき・やぶかんぞう・あさがお

木は自分で
動きまわることができない
神様に与えられたその場所で
精一杯枝を張り
許された高さまで
一生懸命伸びようとしている
そんな木を
私は友達のように思っている

いつか草が
　風に揺れるのを見て
弱さを思った
今日
　草が風に揺れるのを見て
強さを知った

一本の茎が
一本の棒を登って行く
棒の先には夏の空
私も　あんなふうに登って行きたい

Ⅳ　てっせん・どくだみ

花は自分の美しさを
知らないから
美しいのだろうか
知っているから
美しく咲けるのだろうか

おまえを大切に
摘んでゆく人がいた
臭いといわれ
きらわれ者のおまえだったけれど
道の隅で
歩く人の足許を見上げ
ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が
現われるのを待っていたかのように
おまえの花
白い十字架に似ていた

Ⅴ　みょうが

畑の草を一日中むしり
かいこに桑をくれ
夕方　ひょいっと出かけてみょうがをとり
それを売っては
弁当のおかずを買って来てくれたっけねえ
　いつもしょっぱい　ごぶのつくだ煮
花の咲いたやつは安くなるからと
花を抜いて売ったことも　あったよね
もんぺと地下たびの間は
蚊にさされた跡がいっぱいだった
かあちゃん
みょうがを食うとばかになるというけれど
おれは
思い出すことばっかりです

Ⅵ　ばら・きく・なずな

淡い花は
母の色をしている
弱さと悲しみが
　　混り合った
温かな
母の色をしている

母の手は
　菊の花に似ている
固く握りしめ
それでいてやわらかな
母の手は
　菊の花に似ている

神様が　たった一度だけ
この腕を動かして下さるとしたら
母の肩をたたかせてもらおう
風に揺れる
ぺんぺん草の実を見ていたら
そんな日が
本当に来るような気がした

Ⅳ 男声合唱組曲『月光とピエロ』

この組曲の第二曲「秋のピエロ」は、新しい合唱曲を作ろうと全日本合唱連盟が公募して、1948年(昭和23年) 第一回全日本合唱コンクールの男声課題曲に一位入賞した曲です。

作曲者の清水　脩氏は、多くの合唱曲を手掛けるかたわら、全日本合唱連盟設立に参画、理事長を務めるなど、日本の合唱界発展に力を注いだ人です。

1950年、自ら主宰する東京男声合唱団のために、上記の曲に同じ堀口大學の詩集「月光とピエロ」から四編を加えて、現在の男声合唱組曲『月光とピエロ』が完成、初演されました。

その後、この組曲は「ピエロ」を歌わない男声合唱団はないと言われたほど全国で愛唱され日本の男声合唱曲の一頂点として、今も輝き続けています。

この曲の魅力は、まず堀口大學の詩に流れる月光の憂愁と恋の痛手の甘美な、しかし深い悲しみをピエロという仮面の下で泣きつつも笑ってしまう男の織りなすフランス風の諷刺の心であり、そして清水　脩が作曲技法を駆使して男声合唱のあらゆる響きを編み出し、詩への共感を見事なまでに表現したその美しさにあると言えましょう。

(記：田中義信)

月光とピエロ（詩／堀口大學）

Ⅰ 月　夜

月の光の照る辻に
ピエロさぴしく立ちにけり。
ピエロの姿白ければ
月の光に濡れにけり。
あたりしみじみ見まわせど
コロンビイヌの影もなし。
あまりに事のかなしさに
ピエロは涙ながしけり。

Ⅱ 秋のピエロ

泣き笑いしてわがピエロ
秋じゃ！　秋じや！　と歌うなり。
Oの形の口をして
秋じゃ！　秋じや！　と歌うなり。
月のようなる白粉(おしろい)の
顔が涙を流すなり。
身すぎ世すぎの是非もなく
おどけたれどもわがピエロ
秋はしみじみ身に滲(し)みて
真実なみだを流すなり。

Ⅲ ピ　エ　ロ

ピエロの白さ！
身のつらさ！
ピエロの顔は
真白け！
白くあかるく
見ゆれども
ピエロの顔は
さびしかり！
ピエロは
月の光なり！
白くあかるく
見ゆれども
月の光は
さびしかり！

Ⅳ ピエロの嘆き

かなしからずや身はピエロ
月の孀(やもめ)の父無児(てなしご)！
月はみ空に身はここに、
身すぎ世すぎの泣き笑い！

Ⅴ 月光とピエロとピエレットの唐草模様

月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット
踊りけり、
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット
歌いけり、
ピエロ、ピエレット。
踊りけり
ピエロ、ピエレット。
歌いけり、
ピエロ、ピエレット。
踊りけり、
歌いけり、
ピエロ、ピエレット。
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて
ピエロ、ピエレット。
ピエロ、ピエレット。
月の光に照らされて。

(昭和29年) '54.04.10	● 西南シャントゥール結成		
06.26	● 西南学院グリークラブ第3回定期演奏会	☆賛助出演	電気ホール
11.03	● 第9回西部合唱コンクール（1位）		鹿児島市中央公民館
23	● 第7回全日本合唱コンクール（3位）		小倉市立体育館
(昭和30年) '55.11.03	● 第10回西部合唱コンクール（1位）		小倉市立体育館
23	● 第8回全日本合唱コンクール（4位）		名古屋市金山体育館
(昭和31年) '56.12.22	● 第1回西南シャントゥール定期演奏会 (Christmas Greeting with SEINAN CHANTEURS)		西南学院ランキンチャペル
(昭和32年) '57.05.24	● 第2回西南シャントゥール定期演奏会（西南シャントゥール独立演奏会）		電気ホール
(昭和33年) '58.12.18	● 第3回西南シャントゥール定期演奏会（西南シャントゥールクリスマスコンサート）		電気ホール
(昭和34年) '59.08.01	● 西南学院グリークラブ《創立40周年記念》定期演奏会	☆賛助出演	電気ホール
(昭和35年) '60.06.25	● 西南学院グリークラブ第9回定期演奏会	☆賛助出演	電気ホール
(昭和38年) '63.08.03	● 西南学院グリークラブ第12回定期演奏会	☆賛助出演	電気ホール
(昭和43年) '68.12.21	● 第4回西南シャントゥール定期演奏会（西南シャントゥールクリスマスコンサート）		福岡市民会館小ホール
(昭和44年) '69.12.20	● 西南学院グリークラブ《創立50周年記念》特別演奏会	☆賛助出演	電気ホール
(昭和45年) '70.10.21	● 第5回西南シャントゥール定期演奏会（西南シャントゥールファミリーコンサート）		福岡市民会館小ホール
(昭和46年) '71.10.26	● 西南学院グリークラブ第20回定期演奏会	☆賛助出演	福岡市民会館大ホール
(昭和47年) '72.11.09	● 西南学院グリークラブ第21回定期演奏会	☆賛助出演	福岡市民会館大ホール
(昭和48年) '73.11.27	● 西南学院グリークラブ第22回定期演奏会	☆賛助出演	福岡市民会館大ホール
(昭和49年) '74.11.08	● 第6回西南シャントゥール定期演奏会（'74西南シャントゥール《創立20周年記念》演奏会）		福岡市立少年文化会館ホール
(昭和54年) '79.12.08	● 西南学院グリークラブ《創立60周年記念》定期演奏会	☆賛助出演	福岡郵便貯金ホール
(昭和56年) '81.12.12	● 西南学院グリークラブ（第30回記念）定期演奏会	☆賛助出演	福岡郵便貯金ホール
(昭和57年) '82.12.12	● 西南学院グリークラブ第31回定期演奏会	☆賛助出演	福岡郵便貯金ホール
(昭和59年) '84.10.12	● 第7回西南シャントゥール定期演奏会（'84西南シャントゥール《創立30周年記念》演奏会）		福岡銀行本店大ホール
(昭和60年) '85.10.11	● 第8回西南シャントゥール定期演奏会（'85西南シャントゥール演奏会）		福岡市立西市民センター
(昭和61年) '86.12.06	● 第9回西南シャントゥール定期演奏会（西南シャントゥール'86）		都久志会館
13	● 西南学院グリークラブ（第35回記念）定期演奏会	☆賛助出演	福岡郵便貯金ホール
(昭和62年) '87.11.28	● 第10回西南シャントゥール定期演奏会（'87西南シャントゥール演奏会）		福岡銀行本店大ホール
(昭和63年) '88.04.15	● 会長／徳永麟之助氏傘寿を祝う記念音楽会		福岡郵便貯金ホール
12.03	● 第11回西南シャントゥール定期演奏会（西南シャントゥールポピュラーコンサート）		福岡銀行本店大ホール
(平成元年) '89.07.15	● '89 SUMMER JOINT PROMENADE CONCERT		ガスホール
12.02	● 第12回西南シャントゥール定期演奏会（'89西南シャントゥール定期演奏会）		福岡銀行本店大ホール
23	● 西南学院グリークラブ《創立70周年記念》定期演奏会	☆賛助出演	福岡サンパレス
(平成2年) '90.07.07	● '90 JOINT CONCERT		厳原町文化会館（対馬）
11.23	● 第13回西南シャントゥール定期演奏会（'90西南シャントゥール定期演奏会）		メルパルクホール福岡
(平成3年) '91.10.12	● '91 joint in NAGASAKI		長崎市平和会館ホール
11.24	● 第14回西南シャントゥール定期演奏会（'91西南シャントゥール定期演奏会）		メルパルクホール福岡
12.07	● 西南学院グリークラブ（第40回記念）定期演奏会	☆賛助出演	福岡サンパレス
(平成4年) '92.11.14	● 第15回西南シャントゥール定期演奏会（'92西南シャントゥール定期演奏会）		メルパルクホール福岡
(平成5年) '93.11.13	● 第16回西南シャントゥール定期演奏会（'93西南シャントゥール定期演奏会）		メルパルクホール福岡
(平成6年) '94.11.11	● 第17回西南シャントゥール定期演奏会（'94西南シャントゥール《創立40周年記念》演奏会）		福岡サンパレス
(平成7年) '95.11.04	● 第18回西南シャントゥール定期演奏会（'95西南シャントゥール定期演奏会）		メルパルクホール福岡
(平成8年) '96.11.02	● 第19回西南シャントゥール定期演奏会（'96西南シャントゥール定期演奏会）		メルパルクホール福岡
(平成9年) '97.11.08	● 第20回西南シャントゥール定期演奏会（'97西南シャントゥール定期演奏会）		アクロス福岡シンフォニーホール
(平成10年) '98.11.23	● 第21回西南シャントゥール定期演奏会		アクロス福岡シンフォニーホール
(平成11年) '99.11.25	● 第22回西南シャントゥール定期演奏会（'99西南シャントゥール《創立45周年記念》演奏会）		アクロス福岡シンフォニーホール
12.12	● 西南学院グリークラブ《創立80周年記念》定期演奏会	☆賛助出演	メルパルクホール福岡

※主催、共催演奏会と西南学院グリークラブ定期演奏会への賛助出演のみを記載

福岡ゼロックス株式会社

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX

本社
福岡市博多区綱場町3−3
TEL.092(271)3111
FAX.092(282)5409

株式会社 山本文房堂

●本　店／福岡市中央区大名2丁目4-32 〒810-0041 ☎092(751)4342
●すみちか店／中央区天神2丁目住生福岡ビル地階 〒810-0001 ☎092(721)0163
●天神地下街店／中央区天神2丁目地下3号313 〒810-0001 ☎092(771)2727
●西新岩田屋店／早良区西新4丁目西新岩田屋6階 〒814-0002 ☎092(822)0978

取締役会長　的野恭一（28商）
代表取締役社長　山本保之（56商）
専務取締役　的野隆司（57経）

地上16階のコミュニケーションスペース

Communication Space

結婚式・同窓会・記念祝賀会・食事会
講演会・展示会・記念式典・各種会議
研修会など

幅広く、ご利用いただけます。

福岡国際ホール

福岡市中央区天神1丁目4-1西日本新聞会館16階
☎092(712)8855

ご予約は、最寄りの旅行会社または国内線予約
0120-5-11283（イイツバサ）
■インターネット予約　http://www.jas.co.jp/
■電子メール予約　jasform@jas.co.jpで予約申し込みフォームをご請求後
jasrsv@jas.co.jpへお申し込みください。

GOOD SPEED ALWAYS
JAS

いつでもご入会いただける（随時入会）
ボーナスコースになりました。

大丸友の会〈ボーナスコース〉
ご入会募集中

◎お好みのコースをお選び下さい。

ボーナス	3,000円コース
ボーナス1口	5,000円コース
ボーナス2口	10,000円コース
ボーナス4口	20,000円コース

◎大丸友の会特典

特典1	12ヶ月お積立ていただくと、1ヶ月分のボーナスをプラスした13ヶ月分の「満期お買物券」をさしあげます。
特典2	お歳暮、お中元のギフトが特別価格で、お選びいただけます。
特典3	ご入会記念品進呈。
特典4	友の会会員様でご希望の方には、「優待証」をさしあげます。九州各県、山口及び各地一流観光ホテル、レジャー施設、映画、自動車学校などが友の会会員優待料金でご利用できます。

●ご入金に便利な銀行・郵便局の自動振替をご利用下さい。
西日本銀行・福岡銀行・福岡シティ銀行・福岡中央銀行・九州銀行・佐賀銀行・郵便局の中からお選び下さい。

お申し込みは　西館地下2階友の会カウンター
●お問い合わせは（092）712-8181（内線2313・2281）です。

ファッション Ms. コンフォート

DAIMARU
大丸・福岡天神
電話（092）712-8181
全館、毎日午後7時30分まで営業
博多大丸友の会株式会社

●プログラム：表紙デザイン/田中義信　編集/中尾武史　広告/徳永武雄

SINCE 1954 TO 1999